

文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA

石川県文教会館 2019.8

No.80



－ 特集 －

1 頁：新たな「いしかわ型教員研修体制」の推進

石川県教員総合研修センター所長 藤井直樹 氏

2・3頁：「新石川県立図書館の整備について ～「文化立県・石川」の「新たな知の殿堂」を目指し～」

石川県県民文化スポーツ部 文化振興課 新図書館整備推進室課長 塗師亜紀子 氏

4・5頁：インタビュー 「人」

ハープ奏者 上田智子 氏

新たな「いしかわ型教員研修体制」の推進

石川県教員総合研修センター 所長 藤井 直樹



石川県教員総合研修センターは、名称および組織を改めて3年目を迎え、いしかわ師範塾との密接な連携により、採用前の学生から現職教員、退職後の再任教員までの一貫した研修体制を整備してまいりました。この間、教員の急激な世代交代や

多忙化、学校が抱える課題の多様化・複雑化などに対応するために、研修の見直しを進め、この度、新たな研修体制をスタートさせる運びとなりました。

本年度の研修については、①「石川県教員育成指標」に掲げられた資質・能力を向上させる内容であること、②教員の働き方改革にともない、集合型研修の日数を縮減するとともに、研修の再構成を行うこと、③本年度から、すべての学校で取り組んでいる若手教員早期育成プログラムとの関連づけを行うことに留意して計画しています。

これにともない、研修センターのWebページを全面的にリニューアルし、教員が自分のパソコンやタブレット端末などから、いつでも簡単に研修講座の詳細情報を閲覧でき、選択した希望研修の実施要項、事前課題等のお知らせを自らダウンロードできるようにいたしました。

基本研修については、体系を大きく見直しました。初任者研修に始まり、3年目研修、6年目研修、そして採用9年目から11年目を対象とする中堅教諭等資質向上研修、さらに21年目研修というように、研修の対象を原則採用年度とし、教員の各ステージで求められる資質・能力をつけていくために経年研修を再構成したところです。若手教員早期育成プログラムにおける校内研修と連動しながら、若手教員の

早期育成に取り組んでまいります。

教員が学校現場を離れて受講する集合型研修については、基本研修のみならず組織力向上研修や管理職研修においても内容の見直しを行い、研修の質を担保しながら日数を削減しています。

また、昨年度からのライブ配信に加え、オンデマンド配信の研修講座を開設いたします。配信期間内であれば、スマートスクールネットにて、いつでも何度でも視聴することができ、都合のよい時間に、個人的な自主研修はもちろんのこと、若手教員早期育成プログラムなどの校内研修でも活用していただくことができます。

従来から好評をいただいている「校内研修サポート事業」は、本年度より「自主研修サポート事業」に名称変更しました。本年度は、新たに金沢大学教授等と指導主事による金大連携サポートや、校内若手教員研修のメンターに対する電話相談を行う若手電話サポートを加え、学校で行う自主研修や校内若手研修をしっかりとサポートしてまいります。

なお、これまでのカリキュラム開発支援室は、「学びの交流支援室」通称「Edu・Sta（エデュ・スタ ← Educatio Stazione の略語）」と名称変更しました。これまでと同様、教育図書の閲覧や授業DVDの視聴、指導主事への相談など、教員の自主研修の場、学びを交流する場を提供しています。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

これからも、教員総合研修センターの職員一同、石川の未来を拓く子どもたちの健やかな成長を願い、学校や教員のニーズに応えた質の高い研修を提供することで、本県の教育力のさらなる向上を図っていきたく考えています。

新石川県立図書館の整備について ～「文化立県・石川」の「新たな知の殿堂」を目指し～

石川県県民文化スポーツ部文化振興課新図書館整備推進室課長 塗師亜紀子



1. はじめに ～新県立図書館の整備に 至る経緯～

石川県立図書館は、加賀藩所蔵の資料を一部引継ぎ、明治45年に兼六園内で開館して以来、100年以上の長きにわたり、県民への図書館サービスと県内市町図書館の振興に努めてきました。

現在、金沢市本多町にある建物は昭和41年に整備されたもので、約半世紀を経て老朽化が進み、現行の耐震基準を満たしていないとの耐震診断の結果も出ています。

また、閲覧スペースが狭く、書庫が分散して設置されるなどの図書館の機能に関わる問題や、さらには駐車スペースに制約があるなどの課題が顕在化しています。

これらを解決するため、県としては、十分な敷地面積が見込め、県内全域からのアクセスも良好な金沢大学工学部跡地に県立図書館を移転・建替することとしました。

そして、平成28年度には、新たな県立図書館の基本コンセプト「文化立県・石川」の「新たな知の殿堂」を掲げた基本構想を策定し、それを皮

切りに諸準備を進め、本年秋頃には、建設工事に着手したいと考えています。

2 新県立図書館の工夫 ～これまでにない公立図書館を目指し～

新たな図書館は、建物そのものの、さらには図書の見せ方にも工夫を凝らしています。

外観は、落ち着いた色合いの大型パネルとガラス面が交互に重なる形として、図書館ならではの「本のページをめくる」というイメージを表現しながら、開放的な眺めになるように配慮しています。

内部は、1階から3階までの開放的な吹き抜けを中心に設え、その周りを書架が取り囲む、日本国内の公共図書館では類を見ない円形劇場のような大閲覧空間にします。

そこでは、従来の方法にとらわれずに、利用者の目線に立ったテーマを設定し、関連する図書をその分類に関わらずにまとめて並べるほか、背表紙ではなく表紙を見せるなどの工夫を凝らして、多くの書物に囲まれた館内を「めぐり」ながら、本との出会いを楽しんでいただきたいと考えています。



【南側から臨んだ外観イメージ図】



【内観イメージ図（全体）】



【内観イメージ（3階から見下ろし）】

3 児童エリアの充実

－まずは図書と図書館に親しみを－

児童エリアについては、現図書館の約5倍に拡充しながらも、館内の他のエリアに児童の声が伝わらないよう、フロア配置に工夫するほか、幼児・保護者と小学生と年代別にゾーン分けします。

幼児向けには、「遊び場」を思わせるよう、高さや空間に変化をもたせた半円形の空間にして、図書館に来ること自体が楽しみとなるようにします。また、小学生向けには、多様な書架やテーブル、椅子の配置を工夫してゆっくり読書を楽しめるようにします。

さらに、平成29年度からは、その年に発刊される児童書を全て購入するなど、児童向けの図書の充実を図るほか、子育てに関する大人向けのコーナーも設けて親子での来館を促し、親子が共に読書を楽しみながら、小さい頃から図書と図書館に親しんでいただきたいと考えています。

4 文化交流にも重きを

－図書の貸出、閲覧を目的としない方々にも－

これまで述べてきたように新県立図書館の充実はもちろんのこと、県では、図書館の持つその他の機能についても整備を進めていきます。

例えば、講演会やミニコンサート、ワークショップ等が開催できる屋内広場や多目的ホールのほか、工作などの体験ができる学習室やカフェスペース、自習利用を目的としたラーニングラウンジなどを設けます。

図書の貸出・閲覧目的以外の方にも、これらの施設を目的として、気軽に訪れていただくことで、賑わいのある図書館にしたいと考えております。

5 おわりに

－みなさまの積極的な来館を－

新県立図書館の規模は、現在の3倍となる約30万冊の開架図書と約500席の閲覧席、そして、地下には、今後半世紀を見据えた約200万冊の収蔵能力を持つ書庫を設けます。また、県内各地からの来館を見据えて、約400台の大型駐車場を備えることとしており、近年開館した都道府県立の図書館ではトップクラスとなります。

建物は令和3年（2021年）度中の完成を目指していますが、移転作業などもあり開館時期は未定です。

これからも、多くの方のご期待に沿える図書館となるよう、新図書館整備推進室の職員一同で、様々な工夫を凝らしながら諸準備を進めてまいりますので、開館の暁には、こぞつての来館をお待ち申し上げます。



【児童閲覧エリアイメージ】



ハープ奏者 上田 智子さん

金沢市出身。東京音楽大学研究科修了後、パリ・エコール・ノルマル音楽院に入学、第6回ヨーロッパ国際音楽コンクール優勝。同音学院にて、演奏家資格取得し、石川県初のハープ奏者となった。現在は、ソロ、室内楽、オーケストラ等の幅広い分野で演奏活動を続け、後進の指導にあたっている。

インタビュー 文教会館 館長 小浦 寛

～ハープ奏者への道～



館長：ハープ奏者の道を選んだきっかけを教えてください。

上田：6歳の頃、母に勧められたことがきっかけです。私は母にピアノを習っていましたが、その母が皇后(当時)美智子様に憧れアイリッシュハープを購入して始めました。そのアイリッシュハープが家にあったことがきっかけとなりました。「ピアノを習う人はいるが、ハープを始める人はいないので娘に」という母の思いからアイリッシュハープを始めることになりました。母がハープのレコード等をよく聴いていて小さな頃から「なんて素敵な音色」だと思っていたので、母に勧められ嬉しく思いました。

館長：ハープの魅力について教えてください。

上田：ハープの音は、柔らかくやさしい音色で安心して落ちて音だと思えます。小さな頃から母がかけるハープのレコードを子守歌のように聞いていました。家ではクラシックがよく流れていましたが、一番やさしい音色がハープの音色であると思っています。

館長：実際弾いてみてどうでしたか。

上田：レコードを聴いているときは、凄く好きでしたが、実際弾いてみると指が痛くて、自分より大きな楽器で重たくて、何と大変な楽器だと正直思いました。ピアノを打鍵するのは違って、弦を自分の方に握り掴んで指で直接はじくので、とにかく指が痛くて大変でした。

館長：思っていた以上に大変だったということですね。石川県に指導してくれる先生はいましたか。

上田：石川県にはハープの先生はいませんでした。福井県にアイリッシュハープを広めた雨田先生がいらっしましたので6歳から月2回ほど福井県の雨田先生の所へ通いました。習い初めて4年経った10歳の頃、雨田先生に「アイリッシュハープとしては教えることはもう無いから、グランドハープを本格的にやりなさい。幸い体も大きい(小学生の当時)ので弾けるよ」といわれ、グランドハープをやることにしました。

館長：10歳からグランドハープを始めたということですが、苦勞したことを教えてください。

上田：とにかく大変でした。アイリッシュハープに比べグランドハープは更に重たいし、力が要ります。アイリッシュハープは上のピンで音階を調節しますが、グランドハープは、全てペダルを足で踏み音を調節します。両足を忙しく動かしながら、なおかつ優雅に弾かなければならないのがグランドハープの大変なところ

です。ドレスの下は、足が大変なことになっています。

館長：まるで白鳥のようですね。

上田：そうです。白鳥は水面を優雅に泳いでますが、足がしっかり動いています。なので、ハープは「白鳥の楽器」と呼ばれています。

館長：楽譜を全て覚えて、そして足元を見ずに冷静な判断でペダルを操作するということは大変なことですね。次に、高校時代の思い出を紹介して下さい。

上田：金沢辰巳丘高校に入学したときは、学校ができたばかりで、カリヨンの丘があり、校風もよく、校則が無く自由だけど、規律がありとてもよい学校でした。金沢辰巳丘高校には、当時、ハープの指導者がいなかったのので、ピアノ専攻で3年間過ごしました。県内に芸術コースのある高校ができたお陰で、音楽史やリズムの事、聴き取り方等多くの事を学べたことは、本当によかったと思っています。

館長：上田さんは、石川県で初めてハープの専科で音大へ行かれました。大学時代、色々な苦勞をされたと思います。その中で、支えとなったものは何ですか。

上田：ハープを止めたいと思ったことは、幾度となくありましたが、両親の支えがあったから続けられたと思います。常に応援し支えてくれました。そしてこの4年間は私の負けず嫌いな性格が頂点に達した時期でもありました。東京音大へ石川県から初めてハープ専科へ入学するという事で、テレビ特集や新聞に取り上げられ、高校生でコンチェルトを演奏したりと自分は「上手い」と思って入学しましたが、大学へ入学したら最下位といってもいい程でした。大学4年間はひたすら練習に励みました。一日10時間から12時間ハープを弾いていました。もちろん大学の授業には出ていましたが、朝起きて練習、休み時間、空き時間も練習、放課後も練習、食べて寝てお風呂に入る以外は、ほとんど弾いていました。そして、努力の甲斐あって、研究科に進むことができ、そこで初めてハープ奏者として認められたかなと思います。



～第6回ヨーロッパ国際音楽コンクール ハープ上級部門・優勝～

館長：研究科卒業後はどうしましたか。

上田：予てからの夢であったフランスパリのエコール・ノルマル音楽院に留学することができました。私が入学した大学は、6つのグレードに分かれて、実力によって入学グレードが決定します。私は、受験の結果一番レベルの高いグレード6に入学することができました。そして一年で卒業、同大学院高等演奏家の資格を首席で取得し、最短の2年間で卒業しました。ハープの演奏家としては一番実力を認められた時期であったと思います。私を指導して下さった先生は、男性で大変褒め上手な先生でした。「素晴らしい」「こんなハーピストは観たことがない」などと褒めて育てて下さいました。もちろん、長い楽譜の全てを覚えるのが当たり前の厳しい日本の大学6年間であったからこそ、すごく褒めていただき成長したと思います。

館長：その先生の印象に残っているアドバイスとかはありますか。

上田：先生は、私が第6回ヨーロッパ国際音楽コンクールに出場するかどうか悩んでいるときに、「課題曲は君の得意な曲ばかりだから、このコンクールは君が優勝するためのコンクールだよ」と後押ししてくださり、コンクール出場を決めました。第6回ヨーロッパ国際音楽コンクールハープ上級部門で優勝することができ、先生には、凄く感謝しています。

～演奏活動をとおして～

館長：フランスで5年近く過ごされた後、金沢に戻られてからの活動を教えてください。

上田：主に演奏活動を行っています。ハープ教室での指導、吹奏楽部での指導も行っています。

館長：演奏活動をする中での苦労などを教えてください。

上田：演奏活動をするということは、レパートリーを繰り返し弾いていけばいいと思っていましたが、裏を返せば、常に練習しなければならぬということです。演奏会が無く家にいるとき息子に「今日は、お母さん休み？」と聞かれるのですが、私の場合、休みの日は次の本番の為に練習をしなければいけません。演奏会のために常に新しい曲があり、常に練習をしなければならないということです。

館長：お子さんが小さい時は、大変でしたね。今は、どうですか。

上田：二人の息子は中学生と高校生になりました。大きくなれば、子育ては楽になると思っていましたが、親としてすべきことは同じなので、毎日忙しいですね。ただ、子どもたちも、自分の事は自分でできるようになったので、セーブしていた演奏会を、自由にできるようにはなりました。夫や同居している夫の両親にも感謝しています。

館長：演奏会は、日本全国各地に行くのですか。

上田：北陸三県はもちろん行きます。やはり、金沢での演奏が多いですが、ハープ奏者がいない県から呼ばれることも多いです。今年は、台湾にも行かせていただきました。

館長：長い間ハープの演奏を続けてこられて、どのような時に喜びを感じますか。

上田：むかしは、とにかく自分が一番になりたい、世

界中で活躍したいという思いがあり、難曲をひけるようになることに、喜びを感じていました。しかし、今は少し違ってきました。色々な施設で演奏する中で、私の演奏を聞いて涙を流す人がいたり、寝たき

りの方に感情が現れたり、介護している方から、「久しぶりに癒された」「いいひとときだった」といわれたりすることが喜びとなっています。そのような時、ハープの魅力や力を実感することができ、大変嬉しく、幸せに思います。

館長：現在石川県でハープ奏者を目指す人はいますか。

上田：私は現在、金沢・白山・津幡・七尾で教室を開いています。部活の関係もあり、現在約30名の生徒がいます。私の子どもの頃に比べると、ハープを学ぶ子どもは増えたと思います。中学・高校の吹奏楽部の指導にもあたっています。

館長：ハープを学んでいる後輩にメッセージをお願いします。

上田：ハープは優雅で美しく楽器の女王と呼ばれています。確かにハープに憧れる人は増えています。しかし、弾いてみると結構大変な楽器です。諦めず、継続して、努力と向上心でハープを続けて欲しいと思います。そして、ハープを極めて欲しいと思います。

～ハープの魅力を伝える～

館長：最後に今後の抱負をお願いします。

上田：私は、演奏家として、コンサート、オペラ、ミュージカル、コラボ等全て挑戦しています。そんな中、加賀友禅特使となって女流音楽家ユニット「Kotoha」では、琴、笛、ハープの曲が無かったので「加賀友禅」を作曲し大好評を得ました。今現在私は、曲を作ることに楽しんでいます。ハープの魅力は、ハープ演奏者が一番分かっています。ピアノのアレンジ曲ではなくハープの魅力を引き出せる曲を作って、多くの人にハープの魅力を伝えたいと思っています。名曲といわれなくても人に愛されるようなハープの為にハープ曲を作りあげたいと思っています。



(台湾交流事業)



(女流音楽家ユニット「kotoha」)

事業紹介

2019年度 文教国際理解講座のご案内 ～ネイティブスピーカーによる語学講座です～

アメリカ・韓国・中国出身のネイティブスピーカーの指導で、外国の言葉や文化を学べます。
定員に空きのある講座には途中入会ができます。お電話でお気軽にお問い合わせください。



コンソルボ先生（英米文化）



タスケン先生（英米文化）

実施期間：2019年5月～2020年2月

対象：一般、教職員、高校生

定員：1講座 20名

受講料：年額36,000円（年35回）（教材は実費負担）

※途中入会の方の受講料は入会後の回数分となります。

初級：あいさつ程度の会話ができる（英検3級程度）
準中級：英語で簡単なコミュニケーションができる（英検準2級程度）
中級：英語でコミュニケーションができる（英検2級程度）
上級：日本語同様に会話ができる（英検準1級程度）

	10:00～11:40	18:30～20:10
火曜日	▲英米文化 中級	英米文化 準中級 ▲英米文化 上級
水曜日	英米文化 準中級 英米文化 中級	英米文化 準中級 韓国文化 初級 中国文化 初級
木曜日	英米文化 初級 ▲英米文化 準中級	英米文化 初級 英米文化 中級

※中国文化は19:00～20:40

▲は現在定員に達しています。

☆ホームページから募集要項等をご覧ください。



リョウ先生（中国文化）



谷本先生（韓国文化）

文教国際理解講座

検索

教育資料収集整理事業

当財団では、本県の教育の足跡の顕彰と活性化に寄与していきたいと考え、県内に存在する貴重な教育資料を収集し、保管や展示を行っています。江戸時代に藩学で使われていた書籍や明治時代からの教科書をはじめ、教育文献・教育物具等、収集数は5万点を数えます。これらの教育資料は当館の資料展示室や物具室で閲覧することができます（要予約）。1階ロビーにおいても随時、収集資料の紹介をしています。

また、年間を通じて県立学校の活動の紹介等を行うロビー展や、11月の教育ウィーク期間中にはどなたでも参加できる教育史セミナーを開催し、多くの県民の皆さまに教育に対して関心と理解を深めていただけるよう、つとめております。当館へぜひともお立ち寄りください。



ロビー展

*ロビー展の様子は当館ホームページでご覧いただけます。

蔵書リストは当館ホームページよりダウンロードができ、ご自由にご覧いただけます。



お願い

学校やご自宅で廃棄予定の古い教科書や教具の教育資料を当館にご恵贈ください。

推進委員会と資料調査員会



当事業の充実を図るため8教育団体※のご協力を得て、年2回の推進委員会（写真：左上）と年1回の資料調査員会（写真：右上）を開催しています。

委員の皆さまからは、教育資料の収集整理・活用に関するご意見や小中・高等学校等の資料の情報等を頂戴しています。

※県小中学校長会・県高等学校長協会・県退職校長会・県高等学校退職校長会・県PTA連合会・県高等学校PTA連合会・県教育振興会・県特別支援学校長会

石川県文教会館 TEL.076-262-7311

文教会館教育資料

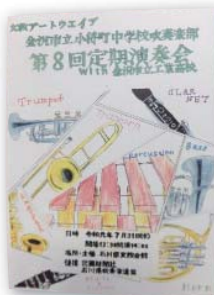
検索

事業紹介

令和元年度 文教アートウェイブ

文教アートウェイブとは、地域文化の振興を図ることを目的に、地域で活躍する芸術文化団体に舞台発表の場を提供する文教会館事業です。今年も感動のひとつときをお届けします。

金沢高校吹奏楽部 サマーコンサート 元.6.22



金沢市立小將町中学校吹奏楽部 第8回定期演奏会
With 金沢市立工業高校吹奏楽部 元.7.31



☆☆ 今後の公演予定 ☆☆

石川県立金沢桜丘高等学校
◆金沢桜丘高校吹奏楽部 クリスマスコンサート

令和元年12月22日(日)
◇入場:無料

開演17:30

石川県立金沢伏見高等学校
◆石川県立金沢伏見高等学校 第7回定期演奏会

令和2年3月22日(日)
◇入場:無料

開演14:00

石川県立金沢泉丘高等学校
◆石川県立金沢泉丘高等学校合唱部 第11回定期演奏会

令和2年3月28日(土)
◇入場:一般500円

開演14:00

石川県立金沢辰巳丘高等学校
◆石川県立金沢辰巳丘高等学校合唱部 第4回演奏会

令和2年3月29日(日)
◇入場:一般700円

開演17:00

文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に、演劇や演奏会等の公演を希望される方にホールについて利用料と冷暖房費を無料でお貸ししています。リハーサルを含む3日間(連続)までご利用できます。(照明設備費・舞台技術費等有料)

詳しくは文教会館事業課までお問い合わせください。

TEL (076) 262-7311

☆ホームページから募集要項や申請書、過去の公演一覧をご覧ください。

文教アートウェイブ 検索

文教会館の施設ご利用について —教育文化の発信に 研修・会議・交流の場—to



各種演奏会、公演などに適した音響・照明完備のホールです。(590席)



少人数の打合せから研修・講演会まで、用途やご利用人数に合わせて、様々な大きさ・タイプの会議室をご用意しています。



様々な用途にお使いいただける和室のほか、茶室や応接室もあります。

当館ホームページで詳細をご覧ください。街中のオアシス「文教会館」をぜひご利用ください。

第32回 いしかわ県民陶芸展

— アマチュア陶芸作品募集 —

県内のアマチュア陶芸愛好家の皆様、作品の創作・展示・鑑賞を通して、陶芸の楽しさや豊かさを発見しませんか。石川県にお住まいの方ならどなたでも応募できます。初心者の方も大歓迎です。小さなお子様からご高齢の皆様まで、ふるって作品をお寄せください。お寄せいただいたすべての作品を展示いたします。どうぞ、発表の場としてご活用ください。

■作品応募について

- 作品規定**
- ・未発表の自作品（1人1作品のみ）
 - ・一辺が50cm以内、縦横高さの合計が120cm以内
 - ・団体作品は、展示時に90cm×90cmの範囲内
- 受付日時** 令和2年1月12日(日) 10:00～15:00
- 受付場所** 石川県文教会館1階ロビー
- 出品料** 一般：2,000円、青少年（20歳未満）：無料
- 審査員** 浅蔵五十吉 飯田雪峰 大樋長左衛門（敬称略）

応募要項・応募票は、石川県文教会館にあります。
また、当館のホームページからもダウンロードできます。
<http://www.bunkyo.or.jp/>

■作品展示について

- 展示期間** 令和2年1月18日(土)～26日(日)
9:00～16:30（最終日は15:00まで）
- 展示会場** 石川県文教会館
- 表彰式** 令和2年1月19日(日) 13:30～15:10 石川県文教会館
◇賞状授与：大賞、石川県教育委員会賞、理事長賞等
◇審査員による講評・作品解説
- その他** 展示期間中、入場者の投票による「わたしの選んだ一点賞」を実施します。
投票された方には抽選で記念品を贈呈します(若干名)。

入場無料



第31回 いしかわ県民陶芸大賞
「海浜の松並木」
小室 豊昭



第31回 審査会の様子



展示会場の様子

主催：公益財団法人石川県文教会館

後援：石川県、金沢市、石川県教育委員会、北國新聞社、NHK金沢放送局、北陸放送、
テレビ金沢、エフエム石川、ラジオかなざわ、ラジオこまつ、ラジオななお、FM-N1

「いしかわ教育ウィーク」関連行事のお知らせ

教育資料ロビー展 文教会館所蔵

「オリンピック・パラリンピックへの思い」
～ふるさと石川より～

期間：11月1日(金)～7日(木)

会場：石川県文教会館1階ロビー

2020年東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。過去、石川県より出場したオリンピック選手関係の書物（当館が所蔵している高等学校記念誌・機関誌等）やパネル、ユニフォーム等を展示します。



入場無料

「教育史セミナー」開催

日時 11月6日(水) 14:30～16:00
会場 石川県文教会館4階大会議室
講演 演題
「学習指導要領が変わる中、
今、子どもたちに求められる力」
講師 小浦 寛 氏

(石川県文教会館 館長)

参加費 無料・申込不要

来年度から順次小・中・高校と新学習指導要領が実施されていきます。今、子どもたちに求められる力は何なのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。